

## カント

### 2018 年本試

問 3 次の文章は，人間の認識をめぐるカントの思想の説明である。文章中の **a** ～ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 **31**

カントは，イギリスの経験論と大陸の **a** の二つの立場を統合して，人間の認識の仕組みを説明したとされる。外界にある対象の認識に際して，**b** を通じてもたらされるものは，ばらばらの素材にすぎず，そのままでは理解できない。そこで，**c** を用いる能力である悟性が，論理的な枠組みや形式(カテゴリー)に従い，それらの素材を，我々が理解できるように整理し，秩序づける。このように，カントは，人間の認識は諸能力の協働によって成り立っていると考え，特に我々が美を捉えようとする際には，諸能力が優劣なく互いに調和していることに着目し，その様子を「自由な遊び」と表現した。

- |   |   |     |   |    |   |    |
|---|---|-----|---|----|---|----|
| ① | a | 唯物論 | b | 感覚 | c | 概念 |
| ② | a | 唯物論 | b | 感覚 | c | 直観 |
| ③ | a | 唯物論 | b | 情念 | c | 概念 |
| ④ | a | 唯物論 | b | 情念 | c | 直観 |
| ⑤ | a | 合理論 | b | 感覚 | c | 概念 |
| ⑥ | a | 合理論 | b | 感覚 | c | 直観 |
| ⑦ | a | 合理論 | b | 情念 | c | 概念 |
| ⑧ | a | 合理論 | b | 情念 | c | 直観 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 3	31	⑤	3

2017 年本試

問 4 次のカントの文章を読み，その内容の説明として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 32

人は道徳法則に反した振る舞いを思い出すとき，それを故意でない過失として，どうしても避けられない単なる不注意として，したがって，自らが自然必然性の流れに押し流された出来事であるかのようにとりつくろい，自分はそのについて責めがないと宣言するために，好きなだけ技巧を凝らすこともできよう。その人は，しかし，自分が不正を犯したときにそれでも自分で判断してやったこと，つまり自らの自由を行使していたことを意識している限り，自らに有利なように語る弁護人としての自分も，自らのうちに住まう原告としての自分を決して沈黙させられないことに気づく。……悪事を自然の結果とみなしたからといって，それによってその人が自分自身に加える自責や非難から守られるというわけではない。ずっと以前に犯した行いについて，それを思い出すたびに後悔することも，以上のことに基づいている。

(『実践理性批判』より)

- ① 人は自らの不正な行いを，自然界の必然性に従って生じた，自分では回避できない出来事として解釈できる。その場合，人は自分に有利に語り，自分には責めがないことを自らにも他人にも表明する自由がある。
- ② 人は自らの不正な行いについて，自責や後悔の念に駆られることがある。その場合，人はその行いが過失や不注意によるものではなく，自分の判断によってなされた自由な行為であったことを意識している。
- ③ 人は自らの不正な行いを，自然界の必然性に従って生じた，自分では回避できない出来事として解釈できる。ただし，その行いが遠い過去のことになると，それを思い出すたびに後悔するようになり，道徳的意識が高まる。
- ④ 人は自らの不正な行いについて，自責や後悔の念に駆られることがある。ただし，人の行いは過失や不注意の結果にすぎない場合もあり，その行いに対する非難から自分を守るために人は道徳法則に訴える。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	32	②	3

2017 年追試

問 5 カントの人間観についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 33

- ① 人間は，自由となるべく運命づけられている存在であり，自由でないことを選択することはできない。このように自由という刑に処せられている人間は，逃れようもなく孤独である。
- ② 人間は，単に内省によって自己を捉えるのではない。人間は，現実の世界に働きかけて自己の理想を世界のうちに表現し，矛盾を克服しながら自己を外化していく存在である。
- ③ 人間は，自己の利益を追求して経済競争を行う。しかし，この利己的な人間同士の競争は，共感に媒介されることで，おのずと社会全体に利益をもたらすことになる。
- ④ 人間は，純粹に善をなそうとする善意志をもつ。人間の道徳的な行為は，よい結果がもたらされたかによって評価されるべきではなく，善意志が動機になっているかで評価されるべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	33	④	3

2016 年本試

問 4 人間の認識能力をめぐるカントの思想の説明として最も適当なものを，次の

①～④のうちから一つ選べ。 

32
----

- ① 時間・空間という形式をもつ悟性と，量・質・関係・様相という形式をもつ感性の協働により，認識は成立する。それゆえ，「内容なき思考は空虚」であり，「概念なき直観は盲目」である。
- ② 受容した素材を，経験に先立って存する形式によって秩序づけるのだから，私たちの認識は単なる模写ではない。「認識が対象に従う」というよりは，むしろ「対象が認識に従う」のである。
- ③ 経験を通じて与えられるのは，現象のみである。だが，与えられた現象を手がかりとして，その背後に想定される物自体についてまで，私たちは認識をひろげることができるのである。
- ④ 神，宇宙の始まり，自由，靈魂の不滅など，私たちの経験を超越する事柄に関しては，理性はこれを認識の対象とすることができない。したがって，それらの存在は否定されるべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	32	②	3

2016 年追試

問 5 カントの倫理思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

33
----

- ① 自然の世界に自然法則が成り立っているように、道徳についても道徳法則が確固として存在する。したがって、人間の現実の共同体のなかで確立している倫理規範に違反することは、決して許されない。
- ② その時々 of 偶然の状況に応じて、適切と思える行動をとるだけでは、本当の意味で道徳的に行為することにならない。一時的な状況だけでなく、行為に関わる全体的状況を考慮に入れなければならない。
- ③ 「…を欲するならば～せよ」という仮言命法は、何らかの目的を達成するための、条件付きの命令である。他方、いつでもどこでも誰もが従わなければならない道徳法則は、無条件に「～せよ」と命じるかたちをとる。
- ④ 「…を欲するならば～せよ」という仮言命法は、物を特定の目的のための手段として利用するように命じる。しかし、人間はいかなる場合にも手段として利用されてはならず、もっぱら目的として尊重されねばならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	33	③	3

2015 年本試

問 6 カントの批判哲学について述べた次の文章を読み、・に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

カントによれば、経験論も合理論も、人間の認識の成立条件を解明しておらず、そのために、前者は不可知論につきあたり、後者は独断論に陥る。このような反省から、カントは、人間理性の能力を検討し、認識能力の源泉と限界を明らかにしようと試みた。その主著においては、「我々の認識はすべて経験とともに始まるとはいえ、それだからといって我々の認識がすべて経験から生ずるのではない」と述べられている。この一文は、の働きがなければ、いかなる対象も与えられないが、対象を客観的に捉えるための枠組みが経験に先立って存在しなければ、認識は成立しないということを意味している。

- ① a 『人間悟性論』            b 悟 性
- ② a 『人間悟性論』            b 感 性
- ③ a 『人間悟性論』            b 意 志
- ④ a 『純粋理性批判』        b 悟 性
- ⑤ a 『純粋理性批判』        b 感 性
- ⑥ a 『純粋理性批判』        b 意 志

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 6	34	⑤	2

2015 年追試

問 3 道徳をめぐるカントの考え方として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

31
----

- ① 人間は理性的であるとともに感性的な存在でもあり，しばしば感性的な欲求に動かされてしまう。だが，理性は，あらゆる条件を抜きにして，道徳法則に義務として従うよう人間に命じるのである。
- ② 人間は感性的な欲求に動かされて生きているため，義務として理性に従うことが必要となる。理性に従うときにのみ，道徳的に正しいだけでなく自己や他者のためを思った行為を，行うことができる。
- ③ 嘘<sup>うそ</sup>をついてはならないのは，嘘によって結局は他人に迷惑がかかり，社会の多くの人の不利益につながるからである。社会的な利益を最大にするためにこそ，道徳的な行為を命じる道徳法則が必要となる。
- ④ 嘘をついてはならないのは，たとえ嘘が人を救うことがあるとしても，信用を失う恐れがあるからである。こうした物事の両面性を見極め，どう行為すべきかを判断することが，道徳的な義務である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 3	31	①	3

2014 年本試

問 4 カントの著作について述べた次の文を読み、・に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

カントは、『実践理性批判』において、「繰り返し長く考えれば考えるほど、常に新たな感嘆と崇敬をもって心を満たすもの」として、「私の上なる星空と、私の内なる」の二つをあげているが、『』では、自然美や芸術を考察の対象として取り上げ、それらに関わる想像力(構想力)の自由な働きを分析している。

- |   |   |      |   |          |
|---|---|------|---|----------|
| ① | a | 自然法  | b | 弁証法的理性批判 |
| ② | a | 自然法  | b | 判断力批判    |
| ③ | a | 道徳法則 | b | 弁証法的理性批判 |
| ④ | a | 道徳法則 | b | 判断力批判    |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	32	④	2

2014 年追試

問 5 哲学の歴史では「疑うこと」が様々な役割を果たしてきたが、次のア～ウはそれらについて説明したものである。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 33

ア デカルトは、少しでも疑い得るものは虚偽としてしりぞける方法的懐疑を徹底した結果、疑っている限りの我の存在だけは確実であると考えに至った。そして、それを土台にして、一切の学問を築き上げようとした。

イ ヒュームは、経験論を徹底させて、人間の心は単なる「知覚の束」にすぎないと主張した。そしてそこから、実在するのは流れゆく知覚だけで、実体としての精神は存在しないという懐疑的立場を取った。

ウ カントは、人間の認識能力を検討して、「物自体」は認識できず、人間の主観によって対象は構成されると考えた。それゆえ、「存在することは知覚されること」だと主張し、物体の実在を否定する懐疑的結論に至った。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	33	②	3

2013 年本試

問 4 カントの批判哲学についての記述として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

33
----

- ① 合理論と経験論の一面性を乗り越えるべく，両者の立場を総合して，人間が物自体を理性によって認識できると論じた。
- ② ヒュームの著作に影響を受け，自然科学の客観性を疑問視して，その基礎にある因果関係が主観的な信念であると論じた。
- ③ ロックの著作に影響を受け，人間の霊魂や神など，人間が経験できる範囲を超えた対象については，その存在を否定できると論じた。
- ④ 認識が成立する条件を考察し，人間の認識は，認識の素材を受け取る能力と，その素材を整理し秩序づける能力の両者から生じると論じた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	33	④	2

2013 年追試

問 5 下線部 e に関して，自律的な主体からなる共同体についてのカントの思想を説明した次の文章を読み，・ に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

カントは，すべての人間が互いを自律的主体とみなし尊重し合う道徳的共同体を理想的な社会とし，これを  の国と呼んだ。さらに，国際的にも道徳が実現することを目指して  を唱えた。

- ① a 目的            b 永久平和
- ② a 相互承認        b 永久平和
- ③ a 主体性            b 永久平和
- ④ a 目的            b 予定調和
- ⑤ a 相互承認        b 予定調和
- ⑥ a 主体性            b 予定調和

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	34	①	2

2012 年本試

問 2 科学的な認識に関するカントの主張として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 認識はすべて経験に由来するものであり、人間の心はもともと何も書かれていない白紙のようなものである。
- ② 確実な認識は、経験に依存せず、人間に生まれつきそなわっている観念を基礎とした理性的思考によって得られる。
- ③ 認識とは、主観にそなわる認識能力によって対象を構成することであり、認識が対象に従うのではなく、対象が認識に従う。
- ④ 確実な認識は、精神が弁証法的運動を通じて段階的に発展していく過程において得られるものである。

問 4 カントはその道徳思想において「自律」を強調したが、この概念についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① 適切な欲望を自分で選ぶことが重要であり、このことが人間の自由とも結び付く。
- ② 神が与えた道徳法則に自ら従うことが重要であり、このことが人格の尊厳とも結び付く。
- ③ 理性が自ら立てた法則に従うことが重要で、このことが人間の自由とも結び付く。
- ④ 構想力が自ら生み出した法則に従うことが重要で、このことが人格の尊厳とも結び付く。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	23	③	3
第 5 問	問 4	34	③	2

2012 年追試

問3 近代的な国家や市民社会のあり方を説いた思想家ア～エとその思想についての記述A～Dの組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

24

ア モンテスキュー      イ ルソー      ウ カント      エ ヘーゲル

- A 自然な愛情によって結び付いた家族と、各自が利益を追求する市民社会とは、国家において統合され、真の自由が実現される。
- B 理想的な道徳的共同体を目指して、諸国家間においても、一切の敵意を終息させる努力をすべきである。
- C 国家権力を立法権、行政権、司法権に分けて、それぞれを独立した機関に担わせることで相互に権力を抑制させるべきである。
- D 公共の利益を求める普遍的な意志は人民自体のものであるから、人民に存する主権は譲渡も分割もできない。

- ① アーA      イーB      ウーC      エーD
- ② アーA      イーD      ウーC      エーB
- ③ アーB      イーA      ウーD      エーC
- ④ アーB      イーC      ウーA      エーD
- ⑤ アーC      イーB      ウーD      エーA
- ⑥ アーC      イーD      ウーB      エーA
- ⑦ アーD      イーA      ウーB      エーC
- ⑧ アーD      イーC      ウーA      エーB

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	問3	24	⑥	3

2011 年追試

問 3 カントの人間観の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。 

25
----

- ① 人間は、社会において他の人格を顧慮することなく、自己の良心に従って普遍的な道徳法則を打ち立て、それに従うべきである。
- ② 人間は、未来に責任をもつ世界市民として、正義の実現に急ぐよりも世界が滅ぶことのないように配慮すべきである。
- ③ 人間は、地球に住み続ける世界市民として、互いに人格を尊重し合う理想社会を目指して努力すべきである。
- ④ 人間は、全人類が平和的に共存する可能性を切り開くために、各自のもつ感受性を研ぎ澄ますべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 3	25	③	3

2010 年追試

問 4 理性による自律を自由と捉えたカントの道徳に関する主張として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 人間に元々具わっている他者の快樂や苦痛への共感が、道徳法則を普遍的なものにしている。
- ② 人間は、自らの意志の格率が同時に普遍的な法則として妥当するように、行為しなければならない。
- ③ 理性による人間の自律は、主観的な格率と客観的な制度とが統合された道徳によって示される。
- ④ 人間の意志がその存在を規定するのではなく、人間の社会的なあり方がその意志を規定している。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	26	②	3

2009 年追試

問 6 人間の尊厳という観念は、ロックやルソーなどの社会契約説における人権思想などと相俟<sup>あいま</sup>って次第に深められていった。特にカントにおいて、哲学的に明瞭<sup>めいりょう</sup>な表現を与えられることとなった。カントは何に尊厳があると考えたか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① 霊的存在である人間が、その内にある小宇宙と外にある大宇宙とが合一することを直観する能力に認められる価値
- ② 身体と精神の統一体である人間存在が、公的な制度や社会規範に則<sup>のつと</sup>って行為することに認められる価値
- ③ 理性的存在としての人間の内にある道德法則と、それに従って自律的に行為する人格に認められる価値
- ④ 自然的存在としての人間の内にある欲求と、それに基づいて生を謳<sup>おう</sup>歌<sup>か</sup>しようとする人間の意志に認められる価値

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 6	28	③	3

2008 年本試

問 1 文章中の 23 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。 23

老人に共感するしないにかかわらず、23 から席を譲らねばならない、と考える立場もある。こうした定言命法を重んじる人は、道徳性を共感のような感情にではなく理性に帰する。<sup>だれ</sup> 誰も善く生きようとする意志にもとづき、理性の立てる普遍的な道徳法則に従って行為する義務がある、というのである。これこそ純粋な責務の道徳論と言ってよい。

- ① 社会がそれを奨励する
- ② 無条件にそうすべきである
- ③ 思いやりは美德である
- ④ それこそ本当の功德である

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	23	②	2

2007 年本試

問 3 狭い意味での道徳についてのカントの思想として最も適切なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

25
----

- ① 「私は何を知るか」をモットーとして，懐疑の精神をもって謙虚に自己吟味を行う。
- ② 生への「盲目的意志」が苦悩を生み出すという認識によって，この苦悩から脱する。
- ③ 人格には絶対的な価値があるのだから，自分と他人の人格を目的として尊重する。
- ④ 他人の幸福や不幸に対して人間が自然にもつ，共感・同情という道徳感情に従う。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 3	25	③	3

2007 年追試

問 1 カントが道徳的に望ましいと考えた行為のあり方の例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

21
----

- ① ボランティアの体験をするように授業で課題として指示されたので、人々に対して奉仕する活動を探して参加することにした。
- ② 通りすがりの老人に手助けを求められ、それに応じないといけないとただちに判断したので、急ぎの用事に都合をつけて協力することにした。
- ③ 八方美人では身がもたないので、人に対して親切にするのは、自分の友人や知人が求めるときに限ることにあらかじめ決めている。
- ④ 身軽に活動できる境遇にあるので、後で自分が困ったときに活用しようと思ひ、ボランティアのポイントを貯蓄することにした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	21	②	3

2006 年追試

問 6 カントの思想や思想史的位罫を説明するものとして最も適当なものを，次の

①～④のうちから一つ選べ。 

27
----

- ① 理性を重視するカントによって啓蒙思想が開始され，その影響のもとでフランスの百科全書派が活躍した。
- ② カントによれば，道德法則を立てる理性の働きは自律的なものであり，個々人の状況によって異なることはない。
- ③ カントは理性の重要性を説き，形而上学を否定したが，理性そのものの吟味は求めなかった。
- ④ カントは，我々が自律した主体として社会的責任を果たすべきであると主張し，行為の社会的結果において道德性が判断されるとした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 6	27	②	3

2005 年本試

問 4 「汝の意志の格率がつねに同時に普遍的な法則として妥当しうるように行為せよ」のカントの言葉にかなった判断の下し方として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

15
----

- ① 誰もがいつでもどこでも、守るつもりのない約束をしたら、約束そのものが成り立たなくなる。そんな約束はしないようにしよう。
- ② 睡眠をとらずにこれ以上仕事を続けると、倒れてしまいそうだ。生物学の普遍的な法則には従わなければならないから、睡眠をとることにしよう。
- ③ まわりにいる人たちから <sup>ひんしゆく</sup> 贗蹙 を買うような行為は、私個人としては問題がないと思われるものであっても、行わないことにしよう。
- ④ いかなる場合でも法律には従わなければならないから、罰をまぬがれることができるからといって法律を破るのはやめることにしよう。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	15	①	3

2005 年追試

問 1 文中の 28 ・ 29 に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

教師：何を読んでるんだい？

生徒：この前の授業に出てきたカントの『28』です。

教師：私も最近読み直したんだけど、ずいぶん難しい話が出てくるだろう？

生徒：そうですね。でも要点がはっきり書かれているのでだいたい分かります。  
常備軍を全廃すべきだという所なんか、なるほどと思いながら読んでました。

教師：そこにはどんな理由が書かれてた？

生徒：えーと……、常備軍があると、結局は平和の方が短期の戦争よりも重荷になるっていうことですね。今もこんな状況なんですか？

教師：カントは 200 年も前の人だから、すべてがそのまま現代に当てはまるとは言えないな。でも、常備軍があると軍備拡大競争が起こるという点は 29 の時代の説明としてふさわしいし、現在にも当てはまるだろうね。そのために財政的に苦しい国もあるようだから。

- |    |   |            |           |
|----|---|------------|-----------|
| 28 | { | ① 戦争と平和    | ② 戦争と平和の法 |
|    |   | ③ 永久平和のために | ④ 平和の訴え   |
| 29 | { | ① 冷 戦      | ② 南北対立    |
|    |   | ③ 国際化      | ④ 植民地主義   |

問 8 カントの理想についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 人類の究極の使命は、道徳的完全性と人格の尊厳性を実現することである。カントは、我々がこのような使命を自覚して、道徳的に一步一步向上することによって、理性的存在者の社会を作り出すべきだと説いている。

- ② 道徳法則に従って行為しても現実の幸福と直接に結び付くわけではない。カントは、「幸福を求めるのではなく、幸福に値するものとなれ」と述べ、つねに自らを道徳的立法者とみなして行為すべきだとしている。
- ③ 社会における理想は現実離れした抽象的なものであってはならず、現実を足場にしながら現実のうちで実現されるべきものである。カントは、「理性的なものは現実的であり、現実的なものは理性的である」と述べている。
- ④ 人格は絶対的価値をもつものであり、それ自身は決して単なる手段となることのないものである。カントは、すべての人間が互いの人格を目的それ自体として取り扱うならば、理想の社会が実現されると考えている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	問1	28	③	2
第4問	問1	29	①	2
第4問	問8	36	③	3

2004 年追試

問 1 カントの主張として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① 人間は，経験を通じて成長するのだから，道徳的な人格の形成も経験に基づいて行わなければならない。
- ② 人間は，いかなる場合にも義務を果たすべきなので，義務に <sup>かな</sup>適った行為にはすべて道徳的価値を認めなければならない。
- ③ 人間は，つねに自律的でなければならず，自らの意志の格率だけを信じて行為しなければならない。
- ④ 人間は，自律的な行為をなしうる主体だから，これを単なる物件と厳しく区別し，尊重しなければならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	10	④	3

2003 年本試

問 6 平和について論じた思想家にカントがいる。その考えとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

17
----

- ① 永遠平和を実現するためには，国家の進む方向を国民自身が決定しうる体制をもった諸国家による平和連盟が必要である。
- ② 文化の破滅が戦争をもたらすのであるから，文化の再生によってしか平和は実現できないが，その文化の再生を担うのは個々の人間である。
- ③ 個人間の搾取が国家間の搾取の原因であるので，各国内部で労働者が権力を握り階級対立を廃止すれば，国家間の対立に起因する戦争もなくなる。
- ④ 人間は好戦的本能を有するが，戦争の原因はこの本能にあるのではなく，社会的制度や伝統，慣習にあり，これらを変えることは可能である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	17	①	3

2003 年追試

問 5 カントは、人格は何よりも尊重すべきものであるという考えを定言命法の形で次のように表現した。この命法の理解として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 

16
----

汝<sup>なんじ</sup>の人格および他のあらゆる人の人格のうちにある人間性を、いつも同時に目的として扱い、決して単に手段としてのみ扱わないように行為せよ。

(カント『道徳形而上学原論』)

- ① 子どものいるにぎやかな家庭を築こうとして結婚することは、夫は妻を、妻は夫を出産の手段と見なすことにつながる。互いを尊重し合っていたとしても、こうした意図による結婚は決してすべきではない。
- ② ボランティア活動であっても、有名人による施設訪問には、施設の子どもや老人を自己宣伝の手段にするという側面がある。子どもや老人を大切にする姿勢が伴っていなければ、そうした訪問活動は決して行うべきではない。
- ③ 参考書を買うためだけであっても、親にお金をねだるのは、親を目的のための手段とすることにほかならないから、決してしてはいけない。アルバイトをしてお金を貯め、必要なものは自分で購入すべきである。
- ④ 将来の就職を考えて大学を受験するのは、自分や家族の利益のために自分自身を手段として利用する行為だと言える。自分の教養を高めるという純粋な動機にのみ基づくのでなければ、決して大学に行くべきではない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	16	②	3

2002 年追試

問 4 カントにとって、道徳的な人とはどのような人か。次の文章を参考にしながら、その事例として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

13

無制限に善いと思なしうるものとしては、世界の内でも外でも、ただ善き意志しか考えられない。……善き意志は……意図された目的の達成に役立つことによってではなく、ただ意志することによって、つまり、それ自体で善いのである。 (カント『道徳形而上学原論』)

- ① Aさんは商売で客を公平に扱うことにしているが、それは、そうすることで信用が得られると考えているからである。
- ② Bさんは絶望的な状況にあっても死を選ばなかったが、それは、生き続けることが人間の義務であると考えたからである。
- ③ Cさんはいつも他人に親切であろうと努めているが、それは、他人からも親切にされたいと考えているからである。
- ④ Dさんはある嘘をついたが、それは、自分が嘘をつけば友人が助かることを知り、友情を大切にしたいと考えたからである。

問 6 文章中の **A** に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

そもそも、「良心」にあたる英語やドイツ語には「**A**」という意味もあった。このことは、良心が、個人の内面の事柄ではあっても、他者や社会を背景にもっていたことを示しているように思われる。

- ① 自然に従うこと      ② 自ら悟ること
- ③ 善く生きること      ④ 共に知ること

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	13	②	3
第 2 問	問 6	15	④	2

2000 年本試

問 1 カントの主張として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① 対象が我々の認識に従うのではなく，我々の認識が対象に従う。
- ② 対象が我々に作用するのではなく，我々が対象を認識する。
- ③ 我々の認識が対象に従うのではなく，対象が我々の認識に従う。
- ④ 我々が対象を認識するのではなく，対象が我々に作用する。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	9	③	3

2000 年追試

問 5 カントの定言命法を表した記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

21
----

- ① 我々が住んでいる世界の中でも，その世界の外でも，無条件的に善とみなされうるものとしては，善い意志のほかにも何も考えてはならない。
- ② 自分の立場だけでなく相手の立場にも立つよう心がけ，そして，相手の欲求を自分の欲求と対等なものとして考慮しなさい。
- ③ 目には目を，骨には骨を，歯には歯を。もしも人からものを盗まれたとしたら，自分も相手から同じだけのものを取り返さなければならない。
- ④ 自分自身の行動の規準が，誰にとっても常に成り立ちうるかどうかを吟味し，成り立ちうる場合にのみその規準に従って行為しなさい。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 5	21	④	3